



Vol. 123



amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori * 網張の森の生き物たち * amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori

白い睫毛の"クシヒゲシャチホコ"

ここ数年の中では紅葉の色づきがよく、赤・橙・黄色のグラデーション を堪能できたのも束の間、雪が積もる日もあり秋と冬を行き来しているよ うなある日、森の中でクシヒゲシャチホコに出会いました。"ガサゴソ" と落ち葉歩きを堪能していると幹に止まっている枯れ葉色のガを発見。背 面から見ると少し透けた翅がハの字に広がり体が少し見えていましたが、 近づくと "スッ" と両翅を内側に引き寄せてシャチホコガらしいスマート な佇まいに。覗き込むと黒くて愛らしい目は、頭部から翅の付け根にびっ しり生えた毛の中に埋もれているようでした。オスは幅の広い羽毛状の触 角をしていますが、このガは細く糸状でメスのようです。晩秋の頃から初 冬にかけて、地面から膝丈程の高さをヒラヒラと飛んでいるフユシャクの 仲間と同じ頃に姿を現しますが、フユシャクの仲間に比べると頭部付近の 毛にボリュームがあり、豪華なファーを付けているようです。翅を閉じた 後は、気配を消しているかのようにじっとしていましたが、オスを引き寄 せるフェロモンは漂わせていたのかも…。いつ雪が降るとも知れないこの 時期の出現は、天候よりも天敵の少なさを優先させたのでしょうか。その 小さな体には、生き抜く術が詰まっているように感じられました。

What is "Kushihigeshachihoko"?

「オスが羽毛状の触覚を持つ

シャチホコガ」

シャチホコガ科 開張:約 33mm 分布:北海道〜九州

オスの触角は大きく羽毛状で、メスは糸状。11~12月に発生し山地では普通に見られる。幼虫の食草はイタヤカエデやハウチワカエデの他にカバノキ科のクマシデやサワシバなど。卵で越冬する。

(参考図書:「標準原色図鑑全集1蝶・蛾」

光 と 色 のいろいろ

- Point of view-

No. 10

分布域の拡大、個体数を増やす動物たち

近年、岩手県全域でニホンジカが増加傾向にあります。温暖化に伴う積雪の減少、道路に撒く融雪剤の利用(ナトリウム補給)等、越冬し生息数を増やしている要因は複数考えられます。ニホンジカは、草木の枝葉や種子、時には樹皮や落ち葉まで採食します。こうした旺盛な食欲によって、農林業や森林生態系等に幅広い影響を与える事が懸念されます。



ニホンジカ 20231210 撮影

季節のはざまに現れた、思いがけない訪問者



イノシシ 20241129 撮影

昨年の初冬、網張の森に4頭ほどのイノシシの群れがやってきました。雪が数10センチ積もる中を歩き回る様子が撮影された他、食物を探し地面を掘り返したような生々しい痕跡も確認されています。その後、寒さや積雪に耐えかねたのか、イノシシの姿を見かけることはありませんでした。

網張でイノシシの群れが確認されたのは、これが初めてになります。小さな個体が雪をかきわけ歩む姿はほぼえましいですが、県内全域にイノシシの分布が拡大している事情を踏まえると、先行きが案じられます。



ニホンカモシカ 20241119 撮影



参考資料:岩手生態学ネットワーク 岩手発・市民講座「人と自然の生態学」第22回『変わりゆく北東北の環境と生き物たち』



アミハリ・バーズ Vol. 66 今秋、マミチャジナイやツグミが飛来した 10 月中旬、シロハラの姿も確認されました。冬鳥たちは温泉館前にあるナナカマドの実をついばみ完食すると、より暖かな場所を目指して旅立ったようです。

シロハラは雌雄で大きな色の違いはありませんが、雄は頭部がやや黒っぽく、腹から脇にかけて灰色味がかって見えるのが特徴です。一方、雌は喉元に灰褐色の斑が入り、腹部が雄より白く見えます(イラストは雄です)。名前ほどお腹は白くありませんが、夏鳥の「アカハラ」と対にして捉えると覚えやすいですね。



シロハラ

科名: ツグミ科(ヒタキ科)

全長:約24cm 生態:冬鳥

分布: 本州西南部、

四国、九州



ベスト写真で綴る!

「岩手山カレンダー」撮影エピソード(4)

- 中山大太郎さん22年の軌跡-

撮影日:2013年12月18日

12月「石仏の樹氷」(お鉢にて) 撮影日:2018年12月2日



この写真は、ビジターセンターに展示されている「岩手山山頂 360 度パノラマ写真」を撮影した日のものです。吉田修次さんより岩手山山頂からの 360 度の撮影を頼まれていたので、秋から冬にかけての天候の安定した日を選んで何度も登っていました。この日は朝 8 時前に馬返しをスタート。偶然、山仲間 6~7 人に出会い、最深で腰までの積雪をラッセルした後から登り、12 時過ぎに 8 合目の小屋に到着しアイゼンを装着しました。 Y 字分岐から右側を登り、一升目のお鉢からこの「石仏の樹氷」を撮影しました。 天気が良くて八甲田山が見えていても鳥海山が霞んでいたり、 360 度の展望はなかなか無く、今年初めて出会うことができました。 14 時頃の頂上は風が強く体感温度はマイナス 10 度以下。手持ちのカメラなので高さがズレないように、また 1/3 ほど重な

るように 360 度の撮影を行いましたが高さが少しズレてしまいました。この日、自分一人では 2 合目くらいまでしか行けなかったと思います。山仲間の協力があったからこそ撮影できました。感謝。

タイトル左の写真(2023 年 12 月 18 日撮影)は構想から 10 数年、ようやく全ての条件が揃い撮影できたものです。 条件は①山に雪があり満月である、②日の出の 10 数分前に月が沈む、③月没の方位が 290 度以上である、④正中高度 70 度以上である、⑤山との距離が 20km 以上で撮影場所がある、⑥天候が良好であることです。全ての条件が揃うのは十数年から数十年に一度のことです。一見すると月明かりのように見えますが、実際は夜明け前の山が赤く染まる直前の瞬間を捉えたものです。当時は気象庁の HP で日や月の出入りの時刻や水平角、正中角などの条件が確認でき、何年もチェックしてきて、この日しかないと判断し撮影に出かけました。大抵の人は日の出日の入りの時刻が 1 日 1 分ほど変わることは知っていますが、月が今日と明日で何分違うかを知っている人は少ないと思います。月は時間も角度も 1 日で大きく変化し、それに伴い撮影場所も数百mから数kmと変わるため、地図上で撮影場所を検討します。この写真が撮れた時は本当に「やった!」という気持ちでした。これ以上の月は撮れないと感じたので、これで月の写真は卒業です。非常に思い入れのある 1 枚です。

1月「朝日に染まる」(雫石町 鎌倉森山頂にて) 撮影日: 2023年1月19日

午前4時15分、網張ビジターセンターから積雪期しか登れない鎌倉森(1,317m)へ、ヘッドライトの明かりを頼りにスタートしました。この日の新雪は約15㎝。一人でのラッセルも大変ではありません。大ブナ平から先は全く踏み跡がありませんでした。右側の雪庇が危ないという意識があり、真っ直ぐ登っているつもりでも、ヘッドライトの明かりは照らす範囲が狭く、下山時に自分のつけた跡を見てかなり左側を登っていたことに気付きました。登頂は午前6時15分。日の出の撮影まで40分以上あります。気温はマイナス17度。とても寒いので、写真に写る場所には足跡を付けないように手前で足踏みをしながら待っていた記憶があります。この日は条件が良かったので期待して日の出を待ちました。早池峰山の左から日が昇り雪面が赤く染まります。中央に見えるのは岩手山です。新しい年の始まりの1月のカレンダーは、日の出の写真にしたいと思



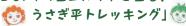
い毎年撮影しています。この年も皆さんが良い年を迎えますようにという思いを込めて撮影しました。

岩手山登頂 200 回を超えた頃から、登山の記録をつけています。歩きながらメモ紙に記録し、帰宅後に黒色はコースタイム、青色は高山植物、赤色はその他気に留めたことなどを色分けして手帳に記します。植物で分からないものは図鑑で調べたり尋ねたりして確認します。記録をつけることにより、いつ、どこで、どの花が咲いていたのか、何種類見られたのかなどを容易に振り返ることができます。また、次の計画を立てやすくなり、誰かを連れて行く際の参考にもなります。赤で記したことを読み返すと、その日の登山が様々思い出されます。このインタビューも手帳を見て振り返りながら話をしています。



例年より短く感じた秋でした

国立公園で楽しむ親子の自然体験 10/4「登山ガイドと登る、





集合時には眼下に雲海が広がる 絶好の登山日和。色づき始めた紅葉を愛でな

がら標高約 1,150mに位置する「うさぎ平」を目指しました。道中、講師より高山植物や動物、山の魅力や山の斜面に合わせた歩き方、地図の見方などのお話もありました。「来年も参加したい」参加者感想より。総勢 23 名

A·V·A·V·A·V·A·V·A·V·A·V·A·V·A

10/19「網張温泉トレッキングツアー」



しながら、紅葉の美しい網張の森を歩きました。途中、行事のしおりに掲載した 1970 年代の網張スキー場のコースマップと比較し、「網張荘」や「平行ロープ・トウ」などを懐かしむ声もありました。「温泉にまつわる話を聞けたので、この後の温泉が楽しみです」参加者感想より。総勢 18 名

11/3 森のクラフト体験 「小刀でカトラリーを作ろう!」



今回はオニ グルミの材で 箸作りに挑 戦。小刀だけ でなく、鉈や 鉋の使い方も

熟練のパークボランティアから教わり ながら木を削りました。小刀を初めて 使う親子から、ベテランの方まで、そ れぞれ世界に一つの箸を作りました。 「無骨な箸になりましたが頑張りまし た」参加者感想より。総勢 12名

▲・▼ 依頼行事 ▼・▲

◆ 9/26、9/29~30 滝沢市立滝沢第二小学校校外学習 「岩手山と自然のめぐみ」



岩手山はどんな山?自然と私たちの係わりは?自然の不思議や魅力についても経

験豊かなパークボランティアのお話も 伺いながら自然のめぐみを五感で体験 しました。5年生3クラス73名参加

◆ 9/3 0岩手県市町村職員健康福利機構 ほがらか健康ツアー 「リフトに乗って秋の網張を散第しよう!!

網張の森を 歩き、「天」 のリフト」を 乗り継ぎ、標 高約 1,300 mに位置する 大倉展望台を



目指しました。秋晴の下、色づき始め た紅葉と牡大なパノラマビューを堪能 しました。31名参加

◆ 1 0 / 3 雫石町立雫石中学校 2 年生職業体験



網張の森の魅力探し、園路の 美化活動やクラ フト材の採取、 かんじきのメン

テナンスなどを体験。働くことについて考える機会となりました。3名参加

1 0 / 1 8 ~ 1 9 「しずくいし産業まつり」ブース出展

雫石町総合 運動公園にあ る町営体育館 内のブースに



て網張ビジターセンターも出展。網張の見所やイベント、ビジターセンターで行っている「生き物調査」の紹介、国立公園の PR 等を行いました。

インフォメーション

12/21(日)『新雪の網張の森でクリスマス気分☆』 (スノーシューハイキング)

> 9:30~12:00 網張ビジターセンター集合 定員:20名 ※要事前予約

参加料:大人800円 小学生以下400円 (スノーシューレンタル別途200円)

1/12(月・祝) 『この時期しか歩けない! 冬の鞍掛山麓探検スノーシューウォーク』 9:30~14:30 たきざわ自然情報センター集合

定員:20名 ※要事前予約

参加料: 大人800円 小学生400円 (スノーシューレンタル別途200円)

共催:滝沢市·滝沢市山岳協会· (一社)滝沢市観光物産協会

1/10(土)~3/29(日) 毎週土日開催 (※行事日を除く) 『網張の森雪上ハイキング』 (スノーシューハイキング)

> 10:00~11:00 網張ビジターセンター集合 定員:各7名 ※要事前予約

发展·谷/石 公安事间 参加料:一人400円

(スノーシューレンタル別途200円)

- 現在開催中のビジターセンター企画展 -| 1 | 月 | 日(土)~ | 2月28日(日)

-川口 卓也・上村 聡 写真展-「僕らと岩手山」



私たちは自 然公園保護管 理員、登山五協 会として日 、山合目の 避難小屋の管

理、パークボランティア、自然公園指導員などの 立場で岩手山だけではなく、十和田八幡平国立公 園の雫石町に帰属する山をよく歩いています。今 回は、早く岩手山に登りたいなあ、こういう風景

があったなあという思いで見て頂いたり、こんな風景も見れるんだ、などの発見もして頂けたりすると嬉しいです。

- 出展者の言葉より



モモンガのつぶやき

今年の秋は、これまであまり活用していなかった二つのものを自宅周りで頻繁に使うようになりました。一つは「ホイッスル」。登山用リュックに結び付けていたものの出番がなく、もの静かな存在でした。玄関を出る時、烏骨鶏の世話をしに行く際など頻繁に使用するように。もう一つは「感覚のセンサー」。歩く際に足元を見ることが多かった視覚は、より遠くに目をやり、いつもと違う物音に聴覚は敏感になり、犬や猫

とは異なる動物の匂いがしないか嗅覚を 澄ますように。便利な道具を持たない ずっと昔の人たちは、とびきり鋭い センサーを持っていたんだろうなぁ。(



十和田八幡平国立公園 網張ビジターセンター

来館者数 ◆ 9月 1,977人 ◆ 10月 1,752人 朝9時のビジターセンター平均気温 ◆ 9月 14.1℃ ◆ 10月 6.3℃

発行 網張ビジターセンター運営協議会

〒020-0585 岩手県岩手郡雫石町長山小松倉 1-2 (網張温泉)

TEL 019-693-3777 FAX 019-693-3778

URL http://amihari17.ec-net.jp

E-mail amihari@vanilla.ocn.ne.jp

開館 冬期(11月から3月末まで)9時~17時 毎週火曜日休館 年末年始休館 (12月29日~1月3日)